

# 横浜トリエンナーレ2008

## YOKOHAMA TRIENNALE



プレス用資料 2008/09/12

テーマ : **TIME CREVASSE** タイムクレヴァス(ときの裂け目)

会期 : 2008年9月13日(土)ー11月30日(日)(計79日間)

会場 : 新港ピア、日本郵船海岸通倉庫(BankART Studio NYK)、赤レンガ倉庫1号館、三溪園、大さん橋国際客船ターミナル、ランドマークプラザ(10/26まで)、運河パーク

チケット : 一般1,800円 大学生1,300円 高校生700円 ※チケットは会期中2日間有効です(連続しない日も可)。中学生以下は無料です。

ハローダイヤル : 03-5777-8600 / 050-5541-8600(8:00 - 22:00) 03-5405-8686 (English 9:00 - 18:00)

ウェブサイト(PC、モバイル共通) : [www.yokohamatriennale.jp](http://www.yokohamatriennale.jp)

### 【 参加アーティスト 】 25カ国・地域 72名

マリナ・アブラモヴィッチ (セルビア)  
荒川 医 と 向井麻理 (日本)  
ジョン・M. アームレーダー (スイス)  
マシュー・パーニー (米国)  
ジェローム・ベル (フランス)  
ウラ・フォン・ブランデンブルグ (ドイツ)  
ツァオ・フェイ / 曹斐 (中国)  
ポール・チャン (中国 / 米国)  
チェルフィッチュ (岡田 利規) (日本)  
チョウ・ミンスク と ジョセフ・グリマ & ストアフロント・チーム (韓国 + 米国)  
ニキル・チョブラ (インド)  
トニー・コンラッド (米国)  
ケレン・シター (イスラエル)  
ハンネ・ダルボーフェン (ドイツ)  
トリシャ・ドネリー (米国)  
マイケル・エルムグリーン & インガー・ドラッグセツト (デンマーク + ノルウェー)  
ペーター・フィッシュリ & ダヴィッド・ヴァイス (スイス)  
ディディエ・フィウザ・フォステイノ (フランス)  
ルーク・ファウラー と 角田俊也 (英国 + 日本)  
マリオ・ガルシア・トレス (メキシコ) ダグラス・ゴードン (英国)  
ロドニー・グラハム (カナダ)  
シルパ・グブタ (インド)  
灰野 敬二 (日本)  
シャロン・ヘイズ (米国)  
クリスチャン・ホルスタッド (米国)  
クスウイダナント a.k.a. ジョンベット (インドネシア)  
ジョン・ジョナス (米国)  
ミランダ・ジュライ (米国)  
マイク・ケリー (米国)  
ハッサン・カーン (エジプト)  
ピチエ・クランチェン (タイ)  
テレンス・コー (中国 / 米国)  
小杉 武久 (日本)  
マーク・レッキー (英国)  
ティム・リー (韓国 / カナダ)  
レナータ・ルーカス (ブラジル)  
ホルヘ・マキ と エドガルド・ルドニツキー (アルゼンチン)  
ポール・マッカーシー (米国)  
ヨナタン・メーゼ (ドイツ)  
グスタフ・メッツガー (ドイツ / 英国)  
内藤 礼 (日本)  
中西 夏之 (日本)  
中谷 芙二子 (日本)  
ヘルマン・ニツチュ (オーストリア)  
大巻 伸嗣 (日本)  
オノ・ヨーコ (日本)  
パク・シュウン・チュエン / 白雙全 (中国)  
フィリップ・パレノ (フランス)  
ファルケ・ピサノ (オランダ)  
ミケランジェロ・ピストレット (イタリア)  
マティアス・ポレドナ (オーストリア)  
ステイヴン・プリナ (米国)  
ニック・レルフ & オリバー・ペイン (英国)  
ペドロ・レイエス (メキシコ)  
ジミー・ロベール (グアドループ)  
笹本 晃 (日本)  
ティノ・セーガル (英国 / ドイツ)  
田中 泯 (日本)  
勅使川原 三郎 (日本)  
リクリット・ティラヴァニヤ (タイ / 米国)  
ツイ・クアンユー / 崔廣宇 (台湾)  
ダン・フォー (ベトナム / デンマーク)  
トリス・ヴォナミシエル (英国)  
クロード・ワンブラー (米国)  
ケリス・ウイン・エヴァンスとスロッピング・グリッスル (英国)

12日

13:00~ 記者発表<総合ディレクター、キュレーターが参加予定> (赤レンガ倉庫1号館3階ホール)

18:00~ レセプション (大さん橋国際客船ターミナル)

13:00より日本郵船海岸通倉庫にて勅使川原 三郎によるパフォーマンス,21:00よりテレンス・コーのパレード「WHITE SILENT PARADE」がリン・グドームより出発。ぜひご参加ください。

## 《 総合ディレクター 》



写真: 黒川 未来夫

### 水沢 勉

1952年横浜市生まれ。1978年慶応義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務、現在同館企画課長。ドイツ語圏および日本の近現代美術に関心を抱き、その交流史についても論じる。主な著作に『この終わりのときにも一世紀末美術と現代』(思潮社、1989年)、『点在する中心』(共編著、春秋社、1995年)、訳書にCh. M. ネベハイ『エゴン・シーレーンスケッチから作品へ』(リプロポート、1993年)など多数。企画・担当した主な展覧会は、「第26回今日の作家」展(1990年/近藤幸夫、正木基との共同企画)、「舟越桂」展(1993年)、「アジアのモダニズム」展(1995年/建島哲、塩田純一との共同企画)、「アントニー・ゴームリー」展(1996年)、「若林奮」展(1997年)、「モボ・モガ 1910-1935」展(1998年/ジャッキー・メンジーズ、ジョン・クラークらとの共同企画)、「小杉武久」展(2002年)など多数。また、1993年と1997年にバンガラデシュ・アジア・アート・ビエンナーレ、2004年にサンパウロ・ビエンナーレの日本コミッショナーを務める。

## 《 キュレーター 》



写真: Wolfgang Tillmans

### ダニエル・バーンバウム

フランクフルト市立美術大学学長、同学ポルティクス・ギャラリー ディレクター。『ホスピタリティ・オブ・プレゼンス』(1998年)を著す。また、ルードヴィヒ・ヴィットゲンシュタイン、エドムント・フッサール、マルティン・ハイデガー等の著作の翻訳/解説者でもある。マガジン3(ストックホルム)のアソシエイト・キュレーターを務め、「アートフォーラム・インターナショナル」への寄稿・編集を行う。これまで約50の展覧会を企画し、『ヴェネチア・ビエンナーレ』(2003年)、『第一回モスクワ・ビエンナーレ』(2005年)には共同キュレーターとして参画した。また、巡回展『アンサートン・ステーツ・オブ・アメリカ』およびボンビドーセンター 30周年記念展『エール・ド・パリ』(2007年)をハンス・ウルリッヒ・オプリスト、ゲンナー・B・クヴァランとともに企画構成した。最新著書『クロノロジー』をシュテルンベルグ・プレスから出版。2009年ヴェネチア・ビエンナーレ総合キュレーターに就任。



写真: Zhang Wei

### フー・ファン

1970年、中国生まれ。1992年に武漢大学の中国文学学科を卒業。ビタミン・クリエイティブ・スペースの創設に参画し、2002年からアーティストック・ディレクター。広州と北京に在住。小説家、ライターとして『ショッピング・ユートピア・センス・トレーニング:理論と実践』、『スペクテーター』などの小説シリーズを出版している。最近では、架空のエッセイ集『ニュー・アーケード(サバイバル・クラブ、センセーション・フェア、クール・サンズイ)』を発表した。『スルー・ポピュラー・エクスペリメンション』、『ルーズ』、『パーフェクト・ジャーニー』、『マイ・ホーム・イズ・ユア・ミュージアム』、『オブジェクト・システム:ドゥーイング・ナッシング』他の展覧会の企画構成を行う。2006年から『ドクメンタ12マガジン・プロジェクト』の編集コーディネーターに携わる。



写真: Melik Ohaniani

### 三宅 暁子

現代美術センターCCA北九州共同創設およびプログラム・ディレクター。1997年の開設以来、数多くの展覧会を企画構成するとともに、50冊を越すCCAアーティスト・ブック・シリーズならびに同時代のさまざまな分野に関連する書籍の企画・編集・出版を行う。マリナ・アブラモヴィッチ、ダニエル・ビュラン、マウリッツィオ・カテラン、タシタ・ディーン、ジミー・ダーラム、マリア・アイヒホルン、オラファー・エリアソン、ケリス・ウィーン・エヴァンス、ハミッシュ・フルトン、リアム・ギリック、ファン・ヨン・ビン、スージャ・キム、フィリップ・パレノ、ピロロティ・リスト、アンリ・サラ、杉本博司、リクリット・ティラヴァーニヤ、ローレンス・ウィナー、他多数のアーティストの展覧会を企画開催している。また、2001年から芸術・科学・人文科学・建築を横断する国際会議『ブリッジ・ザ・ギャップ?』を企画・オーガナイズ、これまで北九州、ミラノ、チェンマイ、上海で開催されている。



写真: Dominik Giger

### ハンス・ウルリッヒ・オプリスト

1968年、チューリッヒ生まれ。ウィーンのみュージアム・イン・プログレス キュレーター(1993-2000)、パリ市近代美術館キュレーター(2000-2006)を経て、2006年4月からサーペンタイン・ギャラリー 国際プロジェクト担当ディレクター、展覧会プログラム共同ディレクター。1991年以降、『ドゥ・イット、テイク・ミー、アィム・ユアーズ』(サーペンタイン・ギャラリー)、『シティーズ・オン・ザ・ムーヴ』、『リブ/ライフ』、『ヌイ・ブランシュ』、『第1回ベルリン・ビエンナーレ』、『マニフェスタ1』を含め、150を超える展覧会のキュレーションを行ってきた。最近では『アンサートン・ステーツ・オブ・アメリカ』、『第1回モスクワ・ビエンナーレ』、『第2回広州ビエンナーレ(中国広東省)』を企画構成している。2007年、マンチェスター国際フェスティバルにおいてフィリップ・パレノと共同で『イル・テンポ・デル・ポスティエノ』を企画構成した。



写真: Mathias Braschler, courtesy Kunsthalle Zürich, 2004.

### ベアトリス・ルフ

1960年生まれ。ウィーン、ニューヨーク、チューリッヒで学ぶ。2001年9月からクンストハレ・チューリッヒ ディレクター兼キュレーター。『テート・トリエンナーレ』(テート・ブリテン、ロンドン、2006年)キュレーター、クンストハウス・グラールス ディレクター兼キュレーター、トゥルガウ州立美術館 キュレーター(1994-1998)、リンギーエ・コレクション キュレーター(1995-)を務めた。2003年から、出版社JRP・リンギーエのアソシエイト・エディターとして活動している。ジェニー・ホルツァー、マリナ・アブラモヴィッチ、ピーター・ランド、リアム・ギリック、ピエール・ユイグ/フィリップ・パレノ、『ノー・ゴースト・ジャスト・ア・シェル』、ロドニー・グラハム、イザ・ゲンツケン、ダグ・エイケン、オリバー・ペイン&ニック・レルフ、ドミニク・ゴンザレス・フォレストル、ジョン・アームレーダー、トリシャ・ドネリー他多数のアーティストの展覧会を企画開催、あわせてエッセイ執筆、カタログ出版を行う。

《 会場の写真撮影に関する注意 》

- ・マシュー・パーニー、ティン・セーガルの作品は作家の意向により撮影は禁止となっております。
- ・撮影された作品については別紙のクレジットを必ずご記載下さい。
- ・会場写真のご提供につきましては、後日下記ダウンロードサイトにアップいたします。

《 画像ダウンロードサイトのご案内 》

参加アーティストの画像や、横浜トリエンナーレ2008のイメージ、ロゴなどがダウンロードできるページをご用意しております。  
 → <http://yokohamatriennale.jp/2008/ja/pr/>

ダウンロード画像一覧

横浜トリエンナーレ2008



中谷実二子 (橋の音 1992)  
JPG / 1.2MB



ダグラス・ゴードン (Between Darkness and Light 1997)  
JPG / 5.7MB



ペドロ・レイエス (Drawing for "Baby Marx" 2008)  
JPG / 6.0MB



大倉伸嗣 (ECHOES - INFINITY 2005)  
JPG / 4.2MB



ジョウ・ミンスクとジョセフ・グリマ&ストアフロント・チーム (RinaDome [Milano] 2008)  
JPG / 1.0MB



デレンス・クー (Untitled [Lights] 2006)  
JPG / 2.8MB



トニー・コンラッド (Yellow Movies 2007)  
JPG / 3.4MB



総合ディレクター 水沢 勉  
JPG / 1.7MB



横浜トリエンナーレ 2008 ポスター  
JPG / 64KB

横浜トリエンナーレ 2008

横浜トリエンナーレ 2008 白ゴマーク  
PDF/JPEG / 452KB



ケリス・フィン・エヴァンス (Aqui el espacio se transforma en tiempo 2006)  
JPG / 736KB



小杉武久 (Interspersion for Lights and Sound 2000)  
JPG / 220KB



ペーター・フィッシュリ & ダヴィッド・ブライス (Parts of a Film with a Rat and a Bear 2008)  
JPG / 3.5MB



フィリップ・プレイン (Postman Time 2008)  
JPG / 1.7MB



内藤 孔 (tama / anima 2006)  
JPG / 8MB



ダニエル・ビュラン  
JPG / 5.2MB



リック・アルマン  
JPG / 5.9MB



横井+室井尚  
JPG / 1.4MB



草野源生  
JPG / 2.1MB

横浜トリエンナーレ2005

横浜トリエンナーレ2001

ダウンロード方法

使用画像を選択いただき、サムネイル下のタイトルをクリックいただきますと、ファイル(ZIP)のダウンロードが開始されます。ファイルフォルダの中には画像(JPEG)とキャプション(TXT)が入っております。

画像使用にあたってのお願い

画像には作品クレジットを必ず付記ください。

参加アーティストの画像のトリミングは原則禁止です。

原稿及び記事についてはご掲載前に横浜トリエンナーレ事務局 広報担当に確認のためお送りいただけますようお願いいたします。

【お問い合わせ】 国内広報 (平・大西・淵上) Email: [press@yokohamatriennale.jp](mailto:press@yokohamatriennale.jp)  
 Mobile:080-3730-3038 TEL:03-5369-6065 FAX:03-5369-6039  
 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1国際交流基金 芸術交流部内

主催：国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会  
 後援：外務省、文化庁、神奈川県、神奈川新聞社

助成：bm.uk 野村国際文化財団 ifa Institut für Auslandsbeziehungen e.V. Mondriaan Stichting swiss arts council prohelvetia

KUNSTRÄDET Danish Arts Council グレートブリテン・ササカワ財団 BRITISH COUNCIL オーストリア大使館(オーストリア文化Cフォーラム)

イスラエル大使館

特別協賛：大和ハウス工業株式会社

協賛：Bloomberg 森ビル株式会社 SHISEIDO DNP 大日本印刷 ITOKI

キリンホールディングス株式会社 SOTETSU 日本郵船 MORI MOTORS inet コスモ石油 東急グループ

東京ビジネスサービス株式会社 パシフィックホールディングス株式会社 株式会社ワコール

株式会社シグマ映像 (株)サカタのタネ、タカナシ乳業(株)、馬淵建設(株)、(株)横浜銀行、横浜信用金庫

協力：INAX JAL Panasonic BEAMS 株式会社ポートサービス hhstyle.com